

# 令和6年度 一般特別選抜学力検査 問題

## 国 語

### 〔注意〕

- (1) 「はじめ」の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけません。  
この「注意」をよく読んでください。
- (2) 国語の検査時間は50分です。
- (3) 問題は1ページから12ページまであります。  
解答用紙は1枚で、この問題冊子の中にはさんであります。
- (4) 受検番号と氏名をこの表紙と解答用紙に必ず記入してください。
- (5) 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- (6) 解答に字数制限がある場合は、記号や句読点も一字としてかぞえます。
- (7) 問題の内容についての質問には応じません。印刷のはっきりしないところがある場合には、静かに手をあげて係の先生に知らせてください。
- (8) 筆記用具などを落とした場合は、静かに手をあげて係の先生に知らせてください。

受検番号					
8	0	0			

氏 名	
-----	--

## 第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

## AIで変わる私たちの生活

ここまで労働現場がどう変わるかを見てきました。次に生活がどう変わるかについて、私の大好きな料理の話で考えていきます。料理は、食べる時の気温や湿度、食べる人が疲れているかどうかなどで、微妙に味を変えて作ります。そんな相手を思う気持ちや、調理の熟達化につながっていくのではないのでしょうか。そこに必要なのは、食べる人のことを思い、試行錯誤しながらいろいろ作ってみること。そして結果を振り返り、失敗や成功からコツを見出し、次に活かすこと。

今日の料理は何を作ろうかと思ったら（作れるとしたら）、何から考えますか。自分が食べたい料理、例えばハンバーグやカレーというメニューから考えることもあるでしょう。あるいは、冷蔵庫にあるものから考えることもありますね。

1章で紹介したAIを使ったレシピ作成支援システムでは、食材を複数入力し、イタリアンやフレンチなどの調理方法、誕生日や平日などのスタイルを選ぶと、ユーザの好みのレシピを複数提案してくれます。その中にはこれまで人間が思いつかなかったものも多くあります。AIには、与えられた知識ベース（知識の集合）の中にある複数の知識を使って、新しい知識を動的に生成する機能があります。近年は、人間の代わりに調理するロボットのレストランも出てきました。使った鍋まで自動で洗ってくれます。AIのレシピと調理ロボットを組み合わせることで、① おいしい料理が毎日食べられるでしょうか。

先日、郊外の小さな港町に ② すごいスーパーがあると聞き、行ってみました。野菜、魚、肉などの生鮮食品だけでなく、お菓子や日用品まで、小さなお店にギュッと詰まっています。お総菜は手作りのお袋の味。巻きずしやおにぎりは、ちよつと大きめで、懐かしい味です。この店舗の他にも「道の駅」に商品を置き、仕出しも行う。質の高い商品をなぜこの規模で提供できるのかしらと、思いを巡らせました。小さな町だからこそ、誰がどんなものを、どのくらい欲しているかがわかるからかもしれません。

均一の品質で大量生産し、価格を抑えた商品や、マニュアルに従った均質のサービスを提供するのも良いけれど、一方で、そこにしかない、「味のある」ものも続いていって欲しいものです。グローバル化が進む一方 ③ 地域では、互いに顔が見え、提供する側と受ける側の双方に恩恵がある暮らしがあります。制度化されたサービスより、④ お金では買えない価値を持ち続ける。地域が持続可能であるためには、提供する人も、享受する人も、その価値を共有することが不可欠です。私が懐かしい味と感じたお総菜は、ジュニア世代のみなさんにとって二〇年後は、コンビニの味になるのでしょうか。

私の両親の世代は子どもの頃、多くの家庭がそうだったように大家族で食事をしていたといえます。私が子どもの時分には、⑤ 家族が進み、親子だけで食事するようになりました。そして年末年始やお盆のときに祖父母宅に大勢集まってわいわい食事をしたものです。日常の食事が変化してきています。夕食を近くの居酒屋やカフェで済ませる独り暮らしの高齢者が増えてきたといえます。親が遅くまで働いていたり、塾や習い事で忙しい子どもたちは、一人で食事を済ませることもあるようです。家族と一緒に食べていても、各人がスマホを見ていては、気持ちはそこにありません。

「人を幸せにしたい」という思いから、理工系の大学に進学した後、紆余曲折を経て料理人になった人がいます。函館にあるスペイン料理店「バスク」のオーナーシェフ深谷宏治さんです。美食のまちとして有名な、スペイン・バスク地方のサンセバスチャンで、一九七〇年代に料理の修業をしました。サンセバスチャンは三つ星シェフが何人もいるまちとして世界的に有名です。深谷さんによれば、バスク地方では昔から男の子が三人生まれたら、一人は医師、もう一人は銀行員、そして三人目は料理人にするといわれるほど、料理人の地位は高いといえます。人を幸せにする力がある料理ですが、ロボットやAIが人間の仕事を代替していく技術が進む社会の中で、今後どうなっていくのでしょうか。

食事は、空腹を満たす、栄養を摂るといことだけが目的ではありません。では他にどんな目的があるのでしょうか。誰とどこで何を食べるのかも大事です。食事をするこの意味を考えることも重要です。急速に社会が変化する中で、私たちにとって良い食事とは何でしょうか。それは一緒に食べる人がいて、何をどう作ろうか悩み考えることかもしれません。でも悩んだ時には、AIに助けってもらえると良いかも。たまに違った料理を食べてみたい。新しい料理を作ってみたい。そんな時にAIレシピやロボットは頼りになります。人間かAIかの二者択一でなく、双方が共存していく選択肢もあるでしょう。

まずはその前に、⑥ 自分で素材を選び、調理し、おいしい料理を作ってみるのはいかがでしょうか。

## 人間にしかできないこと

私たちの労働や生活が、どんなふうに変わるかを見てきました。代替されてしまう職業があることもわかりました。ショッキングな現実ではありませんが、その一方で、人間にしかできないこともある、それも見えてきました。

また共存することで、お互いを活かし合える道があることもわかりました。そう、AIやロボットと共生する社会はすぐそこまで来ていると思います。これから社会に出ていくみなさんが、そうした現実を踏まえて学校でどんなことを学んでいく必要があるかを、ここからは考えたいと思います。人によってそれは、将来どんな仕事や技術開発に携わっていくかということに通じるものでもあるでしょう。また別の人にと

つては、人間にしかできない仕事について、工夫や強化を考えることに通じていくでしょう。

後者において私が注目するのは、近未来においてもAIの実現が遠いと考えられる、人間的な側面である「共感」です。共感<sup>か</sup>は英語に訳すと“sympathy”、あるいは“empathy”と二つあることに気づきます。前者は日本語では「同情」と言い換えられます。後者には他者の立場に身を置き、積極的に相手を理解しようとする、といった意味が含まれます。つまり「共感」とは、他者の感情だけでなく、意図を理解し、共有することなのです。

『AIの時代を生きる』美馬のゆり

問1 ぼう線部①とあるが、この「料理」を作るためにひつようなものは何か。もつともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えさい。

- ア AIなどを操作する技術
- イ 人間の工夫や調理の技術
- ウ 食材に対する豊富な知識
- エ その日の献立に合った食器

問2 ぼう線部②とあるが、筆者はこの「スーパー」のどのような点のことを、「すごい」と表しているのか。八十字以上百字以内で説明しさい。

問3 ぼう線部③とあるが、ここでの「地域」と関係ある表現としてもつともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他では見ることのできないようなもの
- イ どんな人にも好まれるようなもの
- ウ そこだけにあてはまるようなもの
- エ 最新ではなく古くからあるようなもの

問4 ぼう線部④とあるが、なぜ「お金で買えない」のか。その理由を説明した次の文の空らんに入る表現を、本文中から10字以内でぬき出して答えなさい。

サービスを提供する側の（ ）は、お金で買えるものではないから。

問5 空らん⑤に入るものとしてふさわしい漢字1字を、次の中から選びなさい。

ア 独      イ 小      ウ 核      エ 単

問6 ぼう線部⑥とあるが、ここにある「料理」の作り方にあたる表現を、ぼう線部より前の本文中から65字以内でぬき出し、最初と最後に5字を書きなさい。(句読点を含む)

問7 本文の中で、筆者は「人間にしかできないもの」について述べています。次のA～Fは、この内容を理解した生徒たちが、あるテーマについて話し合っているものです。空欄XYZに、ふさわしい表現を書き入れなさい。

ただし、XとYは漢字2字をぬき出して答えなさい。またZは30字以上40字以内で答えなさい。

〈テーマ〉日本のどこかで、台風による大きな被害がもたらされたときに、できることは何か。

- A 今は、遠くで起きていることもリアルタイムで知ることができるよね。
- B うん。だから、被害の状況が具体的にわかるよね。何に困っているのか、何人が困っているのか……。
- C SNSを使えば、もっと正確にわかるよね。何をすればいいのか、何が必要なのかも。
- D こんなとき、AIは便利だよね。被害に関するデータをたくさん集めて、それらを（X）したら、何をすべきかがわかるよね。
- E たしかに、正確だし便利だよね。でもAIは（Y）することができないんだよね。
- F そうそう。つまりAIにはできないけれど、人間は（Z）。このことが、筆者が言っている「人間にしかできないもの」だね。

第2問次は、「『小さな童話』大賞」を受賞した、『草之丞の話』の全文である。これを読んであとの問いに答えなさい。

世間知らずで泣き虫で、夜中に一人でトイレにも行かれないおふくろが、いったいどうして女手一つで、これまで僕を育ててこられたのか、ふしぎには思っていた。それでも、女優じょゆうというのはよほどもうかる商売なのだろうと、僕はのんきに考えていた。

五月。僕は中学にも慣れ、さっそく午後の授業をさぼって映画をみに行った。すると電車の中に、桜色の着物を着たおふくろがいた。  
(どこに行くんだろう)

そうは思っても、こちらも学校をぬけだしてきた身、<sup>①</sup>うかつに声もかけられず、遠くからながめていた。おふくろは、小さなふろしき包みをひぎの上にかかえていた。

電車をおりたおふくろは、駅前商店街をぼくぼくと足ばやに歩き、八百屋の前で立ちどまった。そして、おもむろにふろしき包みをほどくと、中から<sup>②</sup>あじの干物(らしきもの)をとりだして地面におき、まるで墓参りでもするように、しんみように手をあわせるのだった。あつげにとられている僕のそばをすりぬけて、おふくろはさっさと駅へひきかえしてしまった。

七月。朝寝坊ねぼうをした日曜日、パジャマのまま台所に行くとき、おふくろは庭にでていた。よく晴れた、しずかな午後だった。びわの木の下に立って、おふくろはさむらいのかっこうをした男と話をしている。紺こんの着物に刀をきちんとぶらさげて、ちよんまげもりりしいさむらいだった。おおかた、A 役者仲間だろうとは思ったが、それにしてもはさむらい姿が板につきすぎている。これが草之丞だった。

おふくろは日傘ひがきをくるくるまわして、まるで女学生のように頬ほおをそめている。サンダルをつっかけて、僕も庭にでた。

「おはよう、母さん。お客様なの」

<sup>③</sup>おふくろはびくつとして、しばらく僕の顔をみつめていたが、やがてにっこりと微笑ほほえんだ。

「草之丞さんといってね、お父様ですよ、あなたの」

僕は、僕の心臓がこんなにじょうぶでよかったと思う。

おふくろの話はこうだった。草之丞は正真正銘しょうしょうめいめいのさむらいで、また正真正銘の幽霊ゆうれいで、おふくろに一目惚ひとめぼれをした。おふくろがまだ新米女優だったころ、舞台で時代劇の端役はやくをやった。セリフはたった一言だったけれど、あの世で見物していた草之丞は、そのたった一言のセリフ、「おいたわしゅうございます」にすっかりまいってしまい、やもたてもたまらず、下界にやってきたのだ。二人はめでたく恋こいにおち、僕が生まれたというわけだった。

「それからの十三年間、草之丞さんはいつだって私をたすけて下さったのよ」

「たすけるって、どうやって」

「いろんな相談にのってくださいるし、眠れない夜には子守唄もうたってくださいるし、お金にこまったら、お金も貸してくださいるわ」

「幽霊が、金を」

「ええ。たいせつな刀やお皿を売ってね」

「……」

「だから私も、五月には供養をかかさないの」

おふくろの説明によれば、元和八年五月七日、草之丞が壮絶なる一騎打ちの末にあの世へいった野っ原が、現在のあの、八百屋だったらしい。つまりおふくろはあの日、五月七日の命日に、草之丞の好物をかかえて、いそいそと墓参りに行ったのである。僕は絶句してしまった。

草之丞は、ちかくで見ると思いのほか大きく、なかなかの二枚目だった。肩をいからせて、うつむいている。ひどく緊張しているようだった。もちろん僕も緊張していた。

「二人とも黙っちゃって、どうしたの」

ふしぎそうに言ったおふくろをみて、どこまで天真爛漫な人だろう、と僕は思った。

「はじめまして」

しかたなく、僕の方から口をきった。

「こんにちは」

ひくい声だった。

「そなたにとつては、はじめましてなのだね。私はいつも、そなたを見ていたのだが」

へんな感じだった。いつも見ていた、なんて気味が悪い。僕はぶつきらぼうにおじぎをして、さっさと部屋にひきあげた。僕は、幽霊の息子だったのだ。

その日以来、草之丞はしょっちゅう僕の前にあらわれた。幽霊だという立場もわすれて、草之丞はじつに堂々と人前にでるのだ。彼はよく、学校のそばで僕を待ちぶせていた。いきなりとびだしてくるので僕がおどろくと、草之丞はきまって、

「やっぱりこわいか」

とぼそつと言い、ひっそりとわらう。

草之丞と歩いていると、みんなが僕たちに注目した。しかし、さわいんだりこわがったりする人は一人もない。まさか本物のさむらいだとは思わないらしい。それに味をしめて、草之丞はまったくだいたんに街を闊歩した。歩きながら彼はよく唄をうたった。やさしい声をしていた。

それが、彼のぶつちようづらには不似合だった。草之丞と僕とは、毎日いっしょに散歩をするようになった。おふくろはますます天真爛漫

で、④ 僕はまるで家族のように、いっしょに食事をし、いっしょにテレビをみた。

十月のある夜、おふくろによばれてふる場に行くと、草之丞が入っていた。

「お父様の背中、ながしてさしあげなさい」

思わずあとずさりした僕の気も知らず、おふくろはにこにこして出ていった。こうして、とりのこされた僕は幽霊と混浴することになったのである。

草之丞のからだは、白くてきれいだった。ふる場の窓からは三日月がみえた。

「そなたは、さむらいの息子がいやか」

湯ぶねにつかっていた草之丞が言った。

「やぶからぼうに」

僕は少しあわてて、つっけんどんに言った。

「風太郎、そなたはいくつになる」

「十三」

「そうか。もう一人前の男だな」

草之丞はひっそりと笑い、⑤ 僕は胸がしわつとした。

十二月。ごちそうと、ぶどう酒と、レコードと、それはまさに、絵にかいたように上出来のクリスマスだった。僕とおふくろは、草之丞に赤いセーターをプレゼントし話した。草之丞はそれを着物の上からすっぽりと着て、

「これはあたたかい」

と言った。

「すまんことをした。クリスマスに贈り物をするなどという習慣を、まったく知らなかったものでね」

とも言った。⑥ もちろん僕たちは、贈り物など最初から期待してはいなかった。

おふくろと草之丞はワルツを踊り、僕は踊っている両親をみて、うふふ、と笑った。なぜだか、うふふ、と心から笑わずにはいらなかった。踊りおわると、草之丞が言った。

「風太郎、今度はそなたの番だ」

もちろん僕は、大あわてでことわった。おふくろとワルツだなんて、じょうだんじゃない。草之丞は、彼がよくする片頬だけのひっそりわらいをうかべて、



「そうか」

と言った。

「しかし、これからは子守唄だけでもうたっておあげ。私はもうここにはこないから。れいこさんは、風太郎にまかせる」

僕はぎよつとした。まったくとつぜんのことだった。今まで心のどこかで感じていた、そのくせ知らん顔をきめこんでいた、<sup>⑦</sup> そんな責任がにわかに僕の上にふつてきた。おふくろはただ立ちつくし、子供のように素直な声で言った。

「行かないでください」

「自然なことです。もう、私は必要ない」

「行かないでください。行かないでください」

おふくろは、ほかの言葉を知らないかのようにくりかえしている。蚊かのなくような声だった。僕はどうしていいのかわからなくて、とりあえずおふくろの肩かたをだいてみた。

「れいこさんをよろしく」

草之丞が頭をさげると、おふくろはようやく観念したらしく、はつきりとした口調でこう言った。

「私が死んだら、この家はお花畑にしてもらいます。そのお花畑のまんなかに、お墓をつくってもらいます。そうしたら、そこでいっしょに暮らしましょう」

草之丞は、<sup>⑧</sup> ゆったりとわらった。

「では、さらば」

草之丞はきつぱりと言って、ごく普通ふつうの人間がするように、玄関げんかんから出ていった。そして、それきりだった。

これが、草之丞の話のすべてである。おふくろは、今でも毎年、五月になるとあじをかかえて、八百屋の前で手をあわせている。

(『草之丞の話』江國香織)

語注

元和八年……西暦では1622年。

天真爛漫……無邪気で明るい性質のこと。

問1 ぼう線部①とあるが、このとき「僕」が声をかけられなかったのはなぜか。これについて説明した次の文の空らんにあてはまる表現を本文から十字でぬき出しなさい。

声をかけると、おふくろに（ ） ことがばれてしまうから。

問2 ぼう線部②とあるが、なぜこのとき「おふくろ」は「あじの干物」をとりだしたのか。これについて説明した次の文の空らんにあてはまる表現を本文から六字でぬき出しなさい。

あじの干物は（ ）であり、それを彼への供えものとするため。

問3 空らん A に入る語句としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア きまじめな
- イ ふうがわりな
- ウ きがみじかい
- エ おしやれな

問4 ぼう線部③とあるが、このときの「おふくろ」の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 草之丞と二人でいるところを、思いがけなく息子に見つけられてしまい、どうやって言い訳をしようかとあせっている。
- イ 息子の父親の話は、いつかは話さなくてはならないと思っていたが、それが今突然訪れたため、混乱した気持ちを整理している。
- ウ 決心していた父と子の出会いの瞬間だが、とまどいもあり、息子がその事実を受け止められるか改めて確かめている。
- エ 息子と会うことをさける父親の態度を見ると、この後に悪いことが起きそうだが、それでも会わせなければならぬと覚悟している。

問5 ぼう線部④とあるが、ここに現れた「僕」の気持ちを説明した次の文の空らんにあてはまる表現を、本文の言葉をつかって二字以上五字以内で書きなさい。

いっしょに生活していても、僕と草之丞は（ ）ではない。

問6 ぼう線部⑤とあるが、このときの「僕」の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 草之丞への反発が弱まり、親しみの気持ちを感じている。

イ 草之丞に対する怒りの気持ちがさらに強まっている。

ウ 草之丞の不幸な状況に同情の気持ちが増している。

エ 草之丞の言葉にショックを受け、責任を感じる気持ち。

問7 ぼう線部⑥とあるが、ここから読み取れる「僕たち」の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 幽霊に過ぎない草之丞に対してばかにする気持ち。

イ 日々の生活にこまっている草之丞の立場を思いやる気持ち。

ウ 何も知らない草之丞を驚かせてやりたい気持ち。

エ お返しなどいらぬから自分たちの思いを伝えたい気持ち。

問8 ぼう線部⑦とあるが、これはどのような責任を指しているか。これについて説明した次の文の空らんにあてはまる表現を二十字以内で書きなさい。

僕が（ ）という責任。

問9 ぼう線部⑧「ゆったりとわらった」とあるが、これはそれまでの草之丞の「ひっそり」とした笑いと何がちがうのか。これについて説明した次の文の空らんⅠとⅡに当てはまる表現を後のア～カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

このぼう線部までの草之丞には、(Ⅰ) という気持ちがあり、それがひっそりとした笑いに表れていたが、ここで草之丞は(Ⅱ) という気持ちになったため、それがゆったりとした笑いに表れている。

- ア 幽霊で申し訳ないが、夫として父として責任をもって家族を支える
- イ 息子との関係がうまくいかないのが腹立たしいが、がまんする
- ウ 息子に後を任せることができ、安心した
- エ 妻に本当の気持ちを伝えられず、かえって彼女を不幸にしている
- オ 息子とお互いの立場を理解し合うことができ、満足した
- カ 妻には辛い思いをさせたが、仕方がないことだ

第3問 次の各問いに答えなさい。

問1 つぎのぼう線部の漢字の読みがなを書きなさい。

- ① 君の将来は明るい。      ② 暖かい一日だ。

問2 つぎのぼう線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 経済的にハツテンする。      ② 自分の行いをコクハクする。

問3 つぎの各文は文節で分けられています。それぞれの文の主語にあたる文節を答えなさい。

- ① ぼくは 明日 水族館へ 行く。  
② 彼の 住む 白い 家は とても 美しい。

第3問			第2問					第1問									
問3	問2	問1	問9	問8	問5	問2	問1	問7		問6	問3	問2					問1
①	①	①	I					Z	X								
			II								問4						
					問6				Y	シ							
②	②	②				問3											
					問7												
						問4											
											問5						

受検番号				
8	0	0		

氏名